
魔善don ' t keep-out?!

工藤将太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔善don't keep-out?!

【Nコード】

N5151U

【作者名】

工藤将太

【あらすじ】

人は魔者に支配されていた。世は魔乱時代。

魔者は人を喰らい、人は狩人となり対抗するため学校を作った。

それこそが題名ナシ学校。人々は、

「なぜ題名があるのにナシ……??」

という疑問を持ちながら力をつけた。

序章 1話「自己紹介」事故障害?!」（前書き）

バカでグロテスクハ?!ハなバカコメディストーリーの始まり始まりいゝ。

序章 1話「自己紹介」事故障害?!」

沢口香野は遅刻だと思い、早く学校に行っていた。

この学校の生徒は力をつけることから寮生活を強いられてきた。

男子寮、女子寮に分けられ、授業も別なことがある。

寮生活なのでお金も必要!なのでお金も毎月、支給されている。

食堂もあり、お金を払うことになるが、世界中の食べ物を食べれるため

利用生徒も沢山いる。

そして…肝心の狩人の戦い、それは自分の使い魔という小型の契約魔者と契約し武器化―通称…使魔召喚戦である。

しかし、注意事項として使い魔はいくらでも持つて良いが、契約のとき自分の魂の半分をあげなければいけない。

魂は、場合によれば年月かかるが元には戻る。

更に使い魔カードというのがあれば魂の取引は行わなくても良い、ことになっている。

「香野―!」と言ったのは前同じクラスだった、不知火静しづなだ。手足もすらりと細くて女優と言えるほど美人だが人は外見だけじゃない、

と言える程、中は残酷でグロテスク…殺人鬼とも呼ばれていた性格(裏)で

ある。その理由として顔にとび血、手には目のようなものがあつた。

「クラス振り分けどうだと思う?」と上目使いで見てくる女友達に半分

可愛く見えた、半分は。

「ああ…悪いと思うけど。てか、そのとび血と手にある目玉らしき

ものは何だ?」もう半分はそれだ。

「ああ…。目玉ではないけど…理由の元は…あっ!来た!」

とよく

見てみると剛拓也、鋤村良、向井崎勇牙（むかいざき ゆうが）が歩いているのが見えた。とくに良（通称「シヨウ」）は右手で口を押さえて泣いていた。

「シヨウ！おはよう！！」と静が良に言った。

「おまん…鬼や…鬼やろ……？」歯を押さえて泣いている。

歯か。

「めんご、メ・ン・ゴ！拓也、勇牙おはよう！」

《おは…よう…》

「さあ、元気よく、ヨハヨウ……！！」オーラ凄すぎ。

《おはようございます……！！》そりゃね。

「よろしい！」本当に？というより肝心の主人公はどこよ…

…？

（同時刻：学園長室）

「君は何回言ったら分かるんだい？！」という怒号。つかうるせえ。続けて、

「テストの当日にゲームセンターに行って補導員に捕まる？

！君はバカかい？！」

「あなたが思っている以上にバカです。―俺は、」

「はあ…君、試験（振り分け）に受けるつもりは？」当然、

「ありません。」正論だ。

「……君は14番目だけど良いのかい？」

クラス振り分け…テスト（振り分け）によって

1番から14番までに分けられる。一番

良いのは

1番で一番悪いのは14番である。

付け足しとして、この学校の使魔召喚戦で死亡者（本当の）が出

るのは当たり前で

死亡後は教師達によって甦生（生き返る）します。

「別に良いですよ。どうせ核リーダーになるんだから。」

核リーダーとは、使魔召喚戦の中心的なリーダーでそのクラスの成績トップに贈られる

称号。核リーダーを倒すと、中心的なリーダーがいなかったため、そのクラスの敗北となる。

「はあ……君には荷が重過ぎ―」

「では。」

「え?! ちょっと待ちなさ―」

ボタン!

「…………大丈夫かねえ…………沢口広一くん。」

序章 1話「自己紹介」事故障害?!」(後書き)

ノコメントをお願いします!

序章 2話「賞金稼ぎ」お金持ち?!」(前書き)

短編(?!)みたいで御免なさい!!

序章 2話「賞金稼ぎ」お金持ち?!

〈同時刻：14番クラスルーム〉

「まさか…最下位とは…」と第一声、香野^{かの}である。

「良いんじゃない? 私もいるんだし。」静、お前は俺の栄養剤だ。

といった時、扉が開き、核リーダーと担任が入ってきた。

「これから、お前らの教師を務めることになった、鬼原健一だ。」

鬼原と呼んでもいい。質問―いや、良いか。あと一応言っておくが俺は子持ちで別姓は、不知火^{しらい}だ。」

まゝさゝかの静のお父さんか?! ちなみに静には真夏^{まか}

という姉がいます。俺も広一っていう兄がいるんだけど養子で、

しかも成績優秀&身体能力抜群!! でもゲームオタクの馬鹿。

…まあどーせ1番にいるだ―

「14番核リーダー、沢口広一だ。諸事情でコッチに配属。

沢口^{さわぐち}香野^{かの}の兄だ。広一とでも、沢口兄と

でも呼んでくれ。」

「広一?! なぜ、お前が?!」

「―と叫んだのが香野だ。一応男だ。」一応の意味はcom

ming

son.

「あ、そうだ。なぜ皆は使魔召喚戦をやるか御存知だろうか、
…分からないだろうから教えてやる。賞金稼ぎだ。」

《シヨウキンカセギ??》どういう事?

「戦うと戦死者が出る。その戦死者のテストの点数が懸賞金として出る…。それがもらえるんだ。まあ勝利したクラスだ。がな。」

核リーダーの場合、金は2倍いやもつと倍になる。」

《何イゝ?!》

「更に、相手側が攻めて、こちら側が勝利した場合、自分達の懸賞金分、相手に請求できる。」

「一人一人なのか?」と誰かが言う、そんな訳―

「ああ。一人一人だ。」あつたんだ。

「つまり…こういうことだ。」と広一が黒板に書いていく。

相手側↓自分側

勝利後、相手と自分の懸賞金を自分達の下へ

敗戦後、自分達の懸賞金を相手に

(敗戦、勝利の懸賞金は学校が負担。尚、敗戦クラスのクラスルームは設備がボロボロになる。…懸賞金の問題上)

相手側↑自分側

→の書いたことの逆

「更に、勝利した懸賞金で出来るなら一人一つお願いを叶えてくれるそうだ。懸賞金が高ければ高い程

倍だな。」

「ええ!金額…全部かいなあ?!」とサク(良)、どうなんだろうか。

「ああ。全額だ。…お前らそれでも勝ちたいとは思わないか。」

《……うゝん……》その時、誰か一人が「倍額は?」と質問をし、

広一は答えるように黒板にこう書いた。

番《組》

1

2

3

4

5

6

7

8

9 10

倍額 100 90 80 70 60 50 40 30 2
0 10

「あり…？11…14番は…？」

「全番…5倍だ。」

「そうか…っ！…って！！」広一が「んだよ、」と言った
ところで扉が

開き誰かが扉の前で言った。

「我々13番は14番に宣戦布告をする！」皆はいきなりで
驚き。

「良かったな。練習相手が出来て。」と笑いながら鬼原は言
う。

いいわけあるか！

「そうかい。んなら13番のパシリくん、こっち来て。」

「なんですか…？…熱ぢぢぢぢぢ！！…痛てて！！…痛た
た！！

……ぎいやあああああ！！」

『お前から先二殺シテヤル…！！』…広一が静みたいなのには
気のせいかな、多分。その後校庭のど真ん中でパシリ君は焼死体
となって見つかり先生によって甦生した。

序章 2話「賞金稼ぎ」お金持ち?!」（後書き）

次回は今作の根幹でもある、使魔召喚戦!!

………もうすぐグロ入るよ。さあ、どうなるかな…。（てか次回

…。）

序章 3話「使魔召喚戦：vs6番」(前書き)

警告！グロ注意！！(まあ、普通かな？)

序章 3話「使魔召喚戦：vs6番」

『では、これより13番vs14番の使魔召喚戦を承認する。不正行為などをした場合…補習どうあゝ（だゝ）！！』とムダール邪^{あば}亜先生の怒号であり合図で

ある放送室からのスピーカーの音声。ちなみにムダール先生は筋肉ムツキムツキで熱苦しい、物理&理系美化（理科）担当の先生である。（ちなみに鬼原先生は全教科をこなす。）

「今回の作戦だが…とにかく攻め入れる。俺は向井崎のワープ装置が完成するまでココに留まる。」と広一。
「行くぞ、皆！！」

《使魔召喚！！武器化！！》香野に続いて皆はそれぞれの使魔を出し武器化。ちなみに俺は先頭ではなく、一番後ろ。

「行けええええ！！」

『来たぞ！！14番だ！！殺れええ！！』

「あつ、そうだ。香野ー！」やった！戦わないで済む！！

「んあ？何だ？？」でも…何だろう？

「さっきの、「そうか…っ！！って！」って何だ？」

「ああ…。お前今の持ち点数ー」

「0点だが？まあ、点数上限テストの過去点総合なら兆いや京は越してるな。」時々、この小説の主人公は問題点が多いと思う。

「まあ？テスト当日、ゲーセン行って補導員に捕まったけどな。」

「お前はバカだ！！まあ、そうだけど。」

「んじゃあ説明してくれ。」

「んっ？ああ。ただ他のクラスはお前を狙ってくるんじゃないか、って。いや、お前の点数だけー」

「いいや、ただ、その金を使って俺の勉強会みたいな
のを開くだろうよ。」そう。広一は近所の（1＋1＝田

んぼの田！…ウヘヘ…）小学生を一週間の勉強会を開い

たところ、（円周率は3.14159 26535 89793

23846 26433

83279 50288 …）↑みたいなものになって高校受験に
受か

る程の実力を持ってしまった。（当時、広一は小2）それ以
来、広一は勉強会を開かなくなり伝説となったが最近にな
って事実だということが分かり、皆は点数向上を目指し何
人もの人達が使魔召喚戦を申し込み倒れていった。ある
ときは上限で5クラスvs広一（一人）で5分程で返り討ちに
されてしまった。が、今回、広一は雑魚クラス14番に配属。
「広一以外（静を除く）は雑魚という事。なので13番は広
一の勉強会or広一の懸賞金狙いに来たということになる。
とって解説しているうちに扉には13番の人達がいた。

『いたぞ！核リーダーの広一だ。』

『護衛は…なんだ一人か。……雑魚いの。』

「俺は雑魚くて護衛なのか？！」

「虫けら以下の役に立たん護衛だ。」

「意味ないじゃん！！」

「別に俺りゃあ護衛なんざあいらんがな。―使魔召喚。

武器化の雷鎌槍！！」鎌と槍が

くつついて雷タイプの雷鎌槍。広一は13番に刃を向け、
左端から右端にかけて横へと振り回し、15人以上倒し、
こう呟いた。「後は静だな。」と。

（同時刻：13番クラスルーム）

「どういう事だ！！^{キサマ}静！！」

「死亡…死亡…んっ？何かしら??」と死体チェック。

普通、女子がやるものではない。

「なぜ、集団リンチをしようとした30人が一斉に死ぬんだ！―しかも全員、首とんで！―ありえー」

「るんだよ？それが」

「ああ ショウ！死体処理お願い。首と身体を別々に―って、てめえだよゴルア！―良！―」

「ええ？！何でや？！なんでえショウなんや？」通常、良は関西弁を喋る、通常は。

「くわむら 鍬村良の鍬！違い読みでショウ

って読むんだよ！！ゴウタクも拓也の也を取って言うてる、って言えば良いかしら？」

《あっ…ああ…》

「んじゃあ死体処理お願いね、あつ、そうだ君なんで一斉に死んだか知ってる？教えないけど…鉄ロープを

あなたの首に巻いたよ。」

「なっにい―」と言ったところでブチンと言って首が

離れた。静は「これこそ私の暗殺術」（その1）と呟き、パシリ君の首を踏みゴミ箱に入れた。

―13番vs14番…14番の勝利。

懸賞金合計 252万5309円GET。―

序章 3話「使魔召喚戦：vs6番」(後書き)

次回、序章完結!!

まだまだ続くYO!!

それと、あと暗殺術は予想つくと思うけど…鉄ロープを
巻いて思いっきり引いたただけなんだけどね、その1だから…続くよ。

序章：完結 4話「これが俺らの方程式!!」 (前書き)

序章完結!!

序章：完結 4話「これが俺らの方程式!!」

序章：完結 4話「これが俺らの方程式!!」

新しいクラスでの5日目（ちなみに2日目〜4日目までは

12、11、10番と対決…9番は戦いを挑んで来ることはなかった）静が6番に宣戦布告をしていた。

「我々14番は、6番に宣戦布告をします。―では。」
練習だけだ。

「……おつ、静できるか？」

「ん？……無理。というより広一は？」

「屋上でゲーム。」ゲームかよ。

「では、皆今回は6番を討つ。賞金50倍になるクラスで攻撃力は生ハンパでは勝てない。…なので気イ抜けてやってくれ。―以上だ。」とC・Cレモンを取りだし、飲んだ。

「そーいや6番の核リ―」でも、静がいない。

「^{わい}我の親友の武中やな。」とショウ、なら…関西。

「な・の・で・だ。ショウ、^{いち}一と一緒に6番に宣戦布告しに行くてくれ。」^{いち}一というのは同じクラスの

^{みかつき}
^{いち}
三日月一だ。↑一応女。

「へいへい。」と一。ショウも同行し、6番目の宣戦布告へ。

「さあてえとあゝ。増加テスト（賞金UPの確率アリ）でもやるか。」

10分後…

「わかんねえ!!何コレ?!」

「あと20分だぞ。あと1125枚…」うえ?!元は何枚よ?

「んあ？元は3000枚。…面倒くせえなあ…もういつか。」
「リタイアか。」と久しぶりのゴウタク。

「んだよ、終わったよ馬鹿！」

「どうせ合ってないでしょ。」と横田鉄平がボソリ。その後

横田は皆がいる目の前で惨殺死体にされた。その後の6番対決

…色々あつて横田は256回死に、ゴミ箱へ葬られた。

『相手の力が弱い！！一気に攻め込むぞ！！』

「向井崎、落とし穴出して殺せ。」

「…合点了解……！！」と一気に攻め込んでくる敵を瞬時にして落とし上から巨大ハンマーを落とす。血だらけ噴射の大洪水！！
もはや人間の形をしていなく向井崎は落とし穴の出口を焼却炉へと通じさせた。ゴウタクは塞がれた穴の道を通り、自身の武器で敵員を殺ぐ（そぐ）。その道を楽々と通り広一はわずかに開始10分で6番核リーダー武中信吾の前にいた。

「おーおー14番の核リーダーやないか。」

「武中…言ったことヲ後悔シロ。」もはや鬼。

「大丈夫か？広一…。」いろんな意味で。

「アア、ココハ任セロ……。」と俺はひとまず退散。

「なんや？一人とはええ度胸やないか。褒めるでえ。」

「お前に褒められてもちつとも嬉しくねえ。」そして一言。

「香野、よろしく。加勢するから。」と窓を見ると香野が

あいすはるばーど
氷鎌槍あを持って笑っていた。

ただ、屋上に待機させ窓から突き落とし窓が開いている、

6番のクラスルームに入っただけの事。

「不老不死って、知ってたか？」

「なぜ、香野が？！」

「知らねえなら教えてやる。」と言って、氷鎌槍で武中

を斬った。そして一言。

「それが不老不死さ。」と言って氷になった、武中を倒し粉々に。そして終戦…。

└結果：14番勝利┘

賞金ナシ、その代わり願い事一人3つつまで良し！

└結果：6番敗北┘

香野の願い事により一人一つまで

そして、広一と香野は教室を後にした。教室からは、甦生した武中の「ありがとう！！」が響いていた。

序章―完結―

序章：完結 4話「これが俺らの方程式!!」(後書き)

ついに次回新編登場!!

次回 12本勝負大会編：第1話「第11回12本勝負(準備)」
(1日目)」

12本勝負大会編：1話「第11回12本勝負（準備）・（1日目）」（前書き

香野は一応言っておきますが朝は男で、夜は女です。昼はハーフ

……？

まあ、本編で分かります。

12本勝負大会編：1話「第11回12本勝負（準備）・（1日目）」

ほこりは少しだけ舞い、空気は…：それでもなく、悪くもなく良くもない。

この中段、十四番目のクラスに鬼原が来た。この教室、クラスこそが死期亜空という異名を持っていた沢口広一と先月、残酷殺人鬼という異名に変わった不知火静、前書きどおりの沢口香野達がいるクラスでいつもは楽しげにしているが、裏は全然と言って良いほど酷い。しかし、今このクラスが騒いでる時、鬼原の言葉で雰囲気壊した。

「おい。てめえらあ…：聞かねえとブチ殺すぞ？」騒いでいた

皆が一瞬にして静まり、舞っていたほこりもなくなり、換気も良くなった。

…：わずか10秒で。

「テストすつぞー。」

《ふざけるなあゝ！！》

「ちっ…：うるせえなゝたかが2時間で1枚100問（激ムズ）のテストを

50枚する程度だろう？」

《バカじゃないの？》

「では休み時間を使って2時間半、この時間内に終わらせろ。ちっ…：静かにしろおやあ！ちなみにカンニング行為などした

場合ムダール補習いや、俺の補習だな。」よし！（生き残るため）

やるか。しかし5分後…

「先生」

「んあ？何だ、広一。」

「30枚終わりましたがいつペンに出すものなんですか？」
えっ？

あと20枚バカじゃないの？！

…バカではないよ。

うえ？！何？！テレパシー？！

うん。まあ俺はテスト終わったしゲームやるか。

「先生、完了しました。ゲームやってて、良いですか？」

「ああ。残りの1時間45分自由に使」

「お父さん、終わったよ」静もおー！！

「おお、そうか！残り時間自由に使っていいぞ。」本当にこ

の小説

の主人公とヒロインはどうかと思う。あつ、N。Wスーパーで通信プレイ。

毎年恒例行事 クラス対抗12本勝負大会…いよいよ、その準備が
終わ

ろうとしている。文化祭と似て3日間やる事になり、1日目は出し
物、売店

など。2日目はクラス対抗12本勝負。3日目には、劇、パフォー
マンス、など

をする予定らしい。その後は夏休みという感じだ。我ら14番クラ
スは音楽

関係の出し物をする。この学校は制服を必ず着るがこういう祭りの
時に

私服とかでもOK！となる場合がある。今回は学園長である、鬼原
健一が

了承してくれた。

「よし！今日は12本勝負祭の前日っつー事で出し物だかな。
まあ

気合入れてくぞー！！」

《おおー！！》

「バンドでライブやるから…ゴウタク！シヨウに静、向井崎、香野！！こっ

ち来てくれ。」その時、皆は手足がすらりと長く顔立ちもきれいな

背が中くらいの静に見とれた。

「ライブを完成させるからな？準備はいいか？」

《オーケーー！！》

「他の皆は静に見とれてないで、グループに分かれて行動してくれ。

あと皆に言っとく。静と香野は付き合ってるからな？…硫酸はダメだ。

後に回せ。あと、向井崎！」後に回せって…。

「？」

「きつちり写真収めておけよ。」

「…合点了解…！！」とその時広一が歌の紙を渡してくれた。

「ふむふむ…ってちよと待てえや。」

「何？時間余ったからお前の得意のヴァイオリン入れたって？」そうそう！

「って違うわぁー！！なんで時間余んの？」

「さあて、殺ルカア…！！」俺のヴァイオリンが来るまで皆に痛めつけられた。

更にライブ最後の静、俺のヴァイオリン演奏会は大盛り上がりになった。

12本勝負大会編：1話「第11回12本勝負（準備）・（1日目）」（後書き

もつと後になると香野の正体が明らかになります。

では、次回「第11回12本勝負大会（2日目の前日の夜）・（2日目）」

12本勝負大会編：2話 「第11回12本勝負大会（2日目の前日の夜）」

Koichi becomes funny. Attention

n!「広一がおかしくなります。」ご注意!

→の事は本編(↑)を見てください。

12本勝負大会編：2話 「第11回12本勝負大会（2日目の前日の夜）」

（2日目の前日の夜）

いきなりだが罰ゲーム。なぜなら、香野が古今東西&王様ゲームに負け、

広一にいや、静の姉の真夏^{まか}のめいに寄ったからだ。

そして、内容はというと、食べそうにも、そもそも食べれるの？という料理

……毒料理に挑戦する。そしてそれを必ず食べなければいけない、というのも有る。

（前回作）

コンクリートの元の原料の味噌煮

納豆入りメロンソーダー

スイカとメロンジャムを腐ったパンにかけてのトースト

…などを食べ臨死体験したことがあった。

「んじゃあ、俺から…」と広一が立ち、台所へ向かった。

（広一SIDE）

1、ご飯を炊く

2、おかゆを炊く。

3、1に2をかけ、マヨネーズ、ケチャップ、オイスターソース、からし、しょうが

山葵^{わさび}、酢、みりん、醤油、ラー油、チョコレートソース、キャラメル

ソース、メロン・イチゴシロップ、生クリームをかけ、最後にチーズを乗つけて

焼く！お好みでファンタグレープをかけて、ミキサーにかけれ

ば……

4、ライスカレーの出来上がり!!

「ちよつと待て! 臨死体験どころではないぞ?!」

《いただきまあゝす!!》

「聞け! 死ぬぞ……」

ボタン… ガラガラ ガシャン ガシャン (香野以外、倒れる音)

30分も経つても誰も起きないので、香野も食べることにした。

そして、気づいてみると、この世のものとは思えない景色と川と……
って!

「三途の川じゃん!!」と周りを見渡してみると渡ったところに広一、静、真夏

がいた。ー全身、血まみれで。

「おーい! こっち来いよ!!」い・や・だ!!

「ゴウタク、向井崎、シヨウ、(あいつ等)置いてくぞ!」

「何でや?!」お前は広一の呪詛が聞こえないのか?

喋っているのは広一です!!

「I curse it until your pain
is gone …」

Murder; murder;
murder; murder; murder;
kill; kill

: Cruelly! As for none of
the brains! I hate the career,
too,

As for the fate after this
: : : ! Curse; curse; curse

… : A H A H A H A H A H A : :
… : ! This me kills you! Life of
example me
Even if I use it! A , H A H A H A
H A H A H A H A : : : : !」

本訳 「お前らの痛みが無くなるまで呪ってやる…。

殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す

…残酷に！！脳みそも全て！！経歴もいや、

この先の運命も…！！呪う呪う呪う

全て… A H A H A H A H A H A H A H A H A ……

…！！

この俺様が殺つてやる！！例え俺の命を

使つても！！ A , H A H A H A H A H A H A H A

…！！」

《そつや・だな。》うん。だって、行つた直後 0 . 0 0 0 0

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 秒も経たずに

死んじゃうもん！

「Help him to die : Together

…！「死ぬのに手伝ってくれよ…一緒に…！！」」

《嫌だ！！！！》その後の俺らの運命は自分でも分からなかつた。

「お前らさあ、川渡れよ。この世のものとは思えない痛みが走つたのに。」

「広一、タイプは？」

《ドS。》全員はもつた。まあ、真夏^{まか}なら、広一方面だったら喜ぶな。

あいつも静と同様スタイルは良いが、広一にだけドMで以外はドS

っていうね。

しかもレスビアン（レス）で広一が好きって…何なの？？そして、真夏の特徴、

プロテクターヒューマ

それは、情報人間というので、生まれた時から現在までの情報が全て頭に入るといふ能力である。通称、超絶人間とも呼ばれている。

超絶人間にも種類もあるが、5億人分の1人という確率で生まれる。更に！

相手の考えていることも分かるので注意！！

「んまあ、広一方面なら真夏は喜ぶとおもー」

「私が何ですって？」と広一の毒料理から目覚めた真夏が言った。

…多分、今誤魔化さないと僕は―死ぬ、確実に。

「何もいつ言って―」

「広一にだけドMだから真夏は喜ぶ、と言いたかったの？それとも私がレス

だからキモチ悪いとか、言いたかったンダヨネエ？」

「考えているにも記憶にもごさいません。」ダメだ。僕は死ぬ。アア 神様、

私ヲ天国ヘト思シ召サバ…アーメン・ソーメン…味ソ―

「ラーメンが食いたいつて？」いえ、違います。

「なら…広一、包丁12本持つてきて。」広一、諦めたよ。

「いや、濃硫酸ならあるぞ。」なぜ、手持ちに？

「しかし、お前はバカだなあゝ」

「んだとコラア！！」

《えっ…？何が…？》皆してハモるなよ。いいか、

「馬鹿というのは馬と鹿を表すことであって、人間に使うものではないいい！！」

《はあ？！》と全員が呆然として、ドヤ顔をしている、香野に言った。

12本勝負大会編：2話 「第11回12本勝負大会（2日目の前日の夜）」

香野）バ！ ジャイアント馬場のバレイは…

カ！ カミングスウー！！

広一）明らかにヤバイだろ。

香野）次回！「馬鹿は馬鹿のまんま」！！

広一）聞いてねえし。

設定〱使魔召喚戦〱（前書き）

12本勝負大会編の次回、「馬鹿は馬鹿のまんま」を書くの時間が足りませんので、設定〱使魔召喚戦〱の説明を取らせていただきます。大体、土曜日、日曜日に更新致しますのでご了承ください。

設定→使魔召喚戦→

使い魔との戦い：使魔召喚戦のルール

？戦いというので敵前逃亡は厳重注意処分となる。尚、場合によっては無効となる。

？使い魔は雑用、使魔召喚戦、魔者対抗システムとなっているので悪用に使わないこと。使用後、厳重注意処分とする。

？召喚するとき、手持ちの使い魔をいくら出してもかまわないが、必ず「&」と言う事。ただし、&の読みは「アンド・エンド」では×。

「アンパサンド」と呼ぶこと。でなければ召喚することは出来ない。

？敗者は補習授業や、先生の言うとおりに従うこと、しかし絶命人間以外はもう一回戦うことは出来ない。

？絶命人間とは、一回だけでもテストで最下位を取ると、与えられる称号。使魔召喚戦で敗北しても甦生して戦うことが出来る。

？使い魔のバトル形式は以外の通り、

・武器化↓VS

・そのまま（あまり無い）VS

・合体（呼び名として フュージョン、トランス、ギャザアなど）

↓VS

？厳重注意処分について、

・退校

・夏休みなどと言った休みを全て補習授業に

・金額要求

・（あまりに重かった場合、死刑）

・使魔召喚戦の禁止

など、

？使い魔の種類によって形を変える 変化

超獣へと進化させる 覚醒

力などを倍増 進化

などといった、能力はバトル中でも使用許可を許す、しかし、

条件

のある能力はその条件に従うこと。ただし使用中は3分攻撃できない物とする。時間経過しても終わらない場合、攻防を了承する。

・使い魔緊急召喚について、

・使い魔緊急召喚は本来、緊急事態のみ了承される召喚である。

それ以外で召喚すると厳重注意、退校となる。

・使い魔緊急召喚の使い魔は真の力を発揮するため、重みがある。

狩人はこの呪文を持っているがこれで、人間に危害を加えると死刑罪が下される。

設定〱使魔召喚戦〱（後書き）

短いですが、御了承ください。

では、16or17日になります。では次回は「馬鹿は馬鹿のまんま」と

「甘いもの厳禁」の2つ、出来ればですが、もう一本付けます。では、次回楽しみにして下さい。

第5話 「馬鹿は馬鹿のまんま」(前書き)

馬鹿は本当に馬鹿です。

第5話 「馬鹿は馬鹿のまんま」

《はあ？！》と全員呆然とした中、香野は続けて言った。

「はあ？！じゃねえよ。いいか、馬鹿つてのは馬と鹿つて書くー」

「んなことは知ってるよ。」

「だろ？でも広おまえ一は人に使ったじゃん。」

「えっ？それが問題？？」

「馬鹿つてのは馬と鹿を表す言葉だ。〓にんげんに使うものではない。」

なら1つ考えてみよう。この表を見てくれ。」と、表を。それいつ書いた？

「ん？何だ？？」

「この表である限り真面目・不真面目に馬鹿をつけるか？真面目に

勉強する〓馬鹿でもないし、苦手分野で面倒くさい〓不真面目なのか？」

「2つん目に同情するなあ、」とショウ、違うぞ！

「それは全然と言って良いほど違う。中間地点（おっお……？）の奴もだ。」

認めたら、真面目・不真面目も認めることになる。〓人間には

使えない！！」

「じゃあお前は超人馬鹿だな。」

「超人馬鹿？はっは……！！超人が馬と鹿に分離進化したって？」こいつの脳

をいつか抉り出して解剖してみたい。

「……………ジャイアント馬鹿、不知火静〓馬鹿、昆虫王者馬鹿は？」一瞬何

かが切れる音がした。

「ジャイアント馬鹿はジャイ。ント馬場が馬と鹿を殴り倒して笑いながら痛

めつけて後、心臓を抉り出して懲役2分くらったって話だろ。」プロレス選

手になんて事を…！！

「そんであとの二つも同じ―手と足が同時に痺れ―」と静はスタンガンで

倒れさせた。そして先程の毒料理を香野の口に流し込んだ。―広―にも。そして

両者ともに手と足を痙攣させビクビクと喉を震わせ動かなくなった。そしてシヨウが

一言。

「もう、朝の4時だし寝ませんかあ？」と言うと静は真夏と共に広一の部屋に、

倒れた2人は水風呂に裸で入れ鍵を閉め寝た。

第5話 「馬鹿は馬鹿のまんま」(後書き)

短いので次回、「静の毒殺クッキング」というのを同時(日にち)
掲載

致します。よろしく！

第6話 「静の毒殺クッキング」(前書き)

途中から

第7話「12本勝負(当日)〜香野の正体」

第8話「前回の続き」

が付きます。では、お楽しみアレ

第6話 「静の毒殺クッキング」

「へつくしょん！…あー眠い！」と、広一。うん、眠い。あの世であつた時は

パンツ一丁（広一のみ）で真冬の雪国の湖へ！！みたいな感じなのを体験して目

が覚めた。そのせいだろうか、体温は34.2 だった。と、その時タツパにカレー

ライスらしき物を持って来た不知火静とそれを食べ、だるそうにしている、剛拓

也、^{ゴウタク} 鉄村良、そして向井崎が腹を抑えて来た。

「どうしたの？」と恐る恐る言うと3人は声を揃えて（向井崎は少し遅れて）言った。

《食うてみ・食べてみる…死んでしまえ》最後の1つはおかしいぞ。

「食べてみて！！」静、それは何だ？

「んじゃあ俺が…いただきまーす。」

「えっ？！ちよつと待ってー」毒料理か？！

「美味い！！！！」えっ？マジでー

《うえええ…！！》そんなに驚きのもの？！

「お前大丈夫か？！味覚は！！」

「嘘や……。」

「…甘党。」甘党？甘かったの？んじゃあ俺もー

拓）やめろ！死にたいのか！！

良）死にたいんやら自殺の方がマシ、やで。

香）そんなに悪いのか！！向井崎は甘党って言ってたけど甘い…のか？？

広）どうしたんだ？美味しかったぞ。俺の…ちよつと手前…ってい

った所か。

拓・良・香）俺ぐらい……って？

広）ちょうど良いって事。

香）……………やめとくわ。

良）どうしたん？！そんなにヤバイんか？！

香）甘党選手権大会！甘い物で1ヶ月！っていう大会で千呪眼疾風と生き延びたんだ。生き延びれず瀕死になった奴は借金50

00万したらしい。

良）ツツコミどころが多いんやけど……千呪眼疾風って誰や？

香）広一の実兄だ。俺とは養子の兄っていった所だしな。

静）ふーん……んじゃあクツテネ……！！

良・香）なんや・だ？！その呪詛の言葉は何だ・や？！

静）クエヨ……広一ノアレ出スゾ……。

「えっ？！アレって、まだ有るの？！」

「うん。朝にね、ちょっと作ツテキタノ……！！」このムードから誰か助けて……！！

「んじゃあ食べてね……！」とタツパの中身を全て口に入れた。

モグモグ……やべえ……！！

甘い……！一瞬にして口内炎が出来ちまった……！！

「オイシイ？」

「おいしい訳ある……ります……！ありま……す……！！」何故だろうか、広一は俺の左手の甲

あたりにカッター、静の裾から「塩素系……」というビンが見えた。どうかしてる。

「良かった……！！それ広一……のだからコツチ（……）のが香野ね。」「ええっ……！！」

「ちよつと待て……！！そのタツパのカレーのルー部分はチョコだったよな？！」読み手は

無反応or反応しているだろうか、一応具のひとつにかりんとっ、グレープグミなどが

「ありがとう」ショウ、

「サンキュッ！」ゴウタク、

「はい、ありがとう。」殺人鬼^{しずか}、

「…死んじまえ。」てめえだろ、向井崎。

んじゃあ、俺も見るか。フムフム…

1、使魔召喚戦：チーム戦

2、使魔召喚戦：タッグ戦

3、使魔召喚戦：ランダム戦

4、使魔召喚戦：ランダム・決勝戦

5、使魔召喚戦：BOXフィールド・決勝戦

「ってアレ？12本、勝負しくない？」

「お前、知らねえのか？…12本勝負の本当の意味を教えてやろう」うか、と言った所で

《教えてください！！》と、皆が言った。

「全員かよ…わったよ。組数だ。」組数？…でも、14番まで、12では—

「馬鹿がっ！昔は12番までだったんだよ。授業で習ったろ

！！…んまあ…その1…12番までの

クラス達が戦う、だから12本として12本勝負大会ってなったんだ。」

《へえ〜》習ったような覚えはあるけど…「その1…12番」からは習ってないはず…

「その情報…向井崎？…アイツに何を渡した？何ヲ渡シタんだ？」

「…聞いても驚かねえなら良いが。…お前は夜、女だろ？」《マジか？！》ああ、その通り。皆、女に飢えてるね。

「お前が夜寝てる時にコッソリと服脱がして全裸写真を撮ってアイツに渡した。」

「キサマああああああああアアあああ！！」皆は止めようと襲い掛かる。その時、

「Shut up! Fall silent; the
epigs! (うるせえ! 黙れこの豚共が!!)」尚、言ったの
は静。

「私の愛しい花音ちゃんに何すんだボケ!!」いつの間に俺
は花音に?

《花音ねえ》なぜ、皆はニタニタと。

「分かったよ! 説明するから来るなああああ!!」

「I say that I approach Don
ot understand it; is pigs. (近づ
かって言ってるの。分かんねえ

のか? 豚共。)」そして、

「Do you murder him cruelly?
(殺すぞ?)」

説明

AM: 6:00 AM 11:59 : 男

PM: 12:00 PM 6:30 : 男と女の狭間

PM: 6:31 AM 6:00 : 女

←

しかしながらも、広一が作った、性転換薬なら性を転換でき
る。

例えば womanタイプなら時間と制定されている時間、
woman(女)になれる。

man(男)タイプもある。

「更に言うところ朝広一にwomanタイプ食わされた」

《襲え!!》

「そう来ると思った!! 使魔召喚! 武器化、聖剣ギャラクシ
アへ!!」

「私にも?!」ちつ、ちつ、ちつ、ちつ、違うぞ静。なぜなら

―お前が好きだからだ。

「えっ？！う…嘘…」と顔を赤らめていく…やっぱ、可愛い。
「皆、よく聞け。香野は元々…男だぞ？」

《殺す！！》

「やっぱ…そうなるよね。」その頃、向井崎は香野のことも鬼原、ムダールに言い、
クラスの殆どが補習室送りになった。

第8話「前回の続き」

「ほ…う…貴様らよくも人権妨害してくれたな。香野だって一応女にもなるらしい

からな……ムダール教頭、Lv・S - 50に上げて補習してくれ。」

《レベル、Sの50…！！何だそれ―》という所で悲鳴が次々と上がった。

く14番クラスルームく

「花音、胸―」

「言わん。」なんてこういう時だけ真夏^{まか}が来んだよ。真夏が言うには、

静がCで、真夏がD or Fらしい。真夏よりデカイというから、広―たちも尋問して来る。

胸が何だって言うんだ！！別にどうでも―

「良くないわよ！胸が大きかったらバキューンでバキューンなんだよ！！」おい、不女子。

「短えけど、次回予告すつか。」早っ！

「次回、花音の―」

「次回、使魔召喚戦：チーム戦

次回もお楽しみにく」

「おい、俺の予告、まだ終わって無えぞ。」

第6話 「静の毒殺クッキング」(後書き)

次回、夏休みとして、夏休み特別企画：思春期少年少女団という、新小説を出します。乞うご期待！

夏休み特別企画の小説を出す日が決まりました！

2011年7月31日0時です！！

思春期のもっですね。では、お待ちにー！！

第7話 「勝負の行方」(前書き)

都合じょうにより第7話「使魔召喚戦：チーム戦」はこちらと合併しての

お届け。なので上のほうは消しまーす。

しかし、本文はなに一つ変わっておりません。

では、合併としては短いですがお楽しみください。

第7話 「勝負の行方」

この作品の根幹の使魔召喚戦がついに…ついにやって来た！！
そして、トーナメント表はというと…

トーナメント表

1 v s 8、 ↑ : A) 1 4 v s 2 , 1 3 v s 3 , 1 2 v s 4
 : B) 1 1 v s 5 , 1 0 v s 6 , 9 v s 7
|| A) 勝ちクラス v s B) 勝ちクラス が、
1 o r 8 と対決。

「1 4 v s 2 って鬼だ！！何故？！絶対その後3とか4になるだろ！！」と香野は叫んだ。

「別に鬼じゃないさあ。相手の核リーダーを倒せやいい話だろ？」と広一。

良い訳有るか！！

「2 , 3 , 4、は結構手強いんだぞ！！前だつて5、1 3 番までが2と相手したとき

ボロ負けだったじゃん！！」

「それは頭の^{ミミ}問題だろ。一挙多無勢でも無理なんだからさあ。それに

俺が真正面から突っ込んだ事があるか？作戦を使うんだよ。

」

「そう。広一の言うとおり、真正面からはまず、勝ち目は無い。なので俺から

推進の作戦を言い放つてやる。」と何故かしらボードを用意し見せた。

【今から言うことは全て嘘だ。このボードから書くことが本当だから、ヨロシクな。】

「盗聴されていることは分かる？なら、嘘について質問を上げようか。本当のことはボードに書くか。」

「まず、広一が屋上に行く。」【一応これを香野にやってもらいたい】

「そして広一がメイド姿でこの、段ボール箱に入って待機。」
【香野は女装　　したあと撮影会だ。】

「あつ、そう！話題を変えるがここにお土産があるんだが…
食ってくれ。」
【womanタイプだ】

「鬼原先生、有難うございます！」「【鬼原のまごころ！！キサマは教師か！！】

「香野に褒められるのは余り無いな…。」【ああ、立派な教師だ。】

「……………」。（香野が鬼原を睨みながらwomanタイプを飲む時の沈黙　　【報酬は？】

「では、話を続けよう。」【ない。】このような会話は5分くらい続いた。

「俺だけって辛いなあ。」広一と一旦分かれた時、こう言われた。

『お前は合図があるまでロープで2番クラスルーム近くの外の窓で待機してくれ。』

合図は不老不死だ。ん？俺？？んまあ見てなって！！」ど
ういう意味だろうか。2番核リーダーは

仁田良助という頭の回転が全て悪い方へと導く、奴だが、どうやってあいつを討つか。
真正面から行くチームに紛れ

たって勝負に申し込まれてしまう。
ましてや床or天井を壊しても低確率でやられる。

しかし、広一はその後驚きの方法で仁田に勝ったのであった。

「熱いなあ、窓開けてよ。あと、もう時間だからしっかり働いてくれよ！」

と仁田は他のクラスの生徒に言った。尚、仁田はお金目当て・クラス仁田以外の生徒は仁田の処刑。

一方、花音

「何で花音になって…いるかは…聞かんがああ…ふう…
…ロープはきつつ…！
てかなんで向井崎が居んの？」

「…任務。鐘が鳴ったら作戦開始。」

「誰の」よ。お前えのか？」

「…自分自身」とその時ジリジリという音共に鐘が…鳴った。と瞬発的に向井崎が窓に

爆弾と思われる物を（開いているので）投げ入れた。そして自身の武器で…って、

パーソナルコンピュータ（通称「PC、パソコン」）

でもう一つの煙幕弾を野球ボールに変え入れた。その30秒後爆発。煙幕状態がはれた時、不老不死と聞こえたので行こうとしたが向井崎が止める。理由は状態、

不老不死の単語が5回流れその25秒後突入。

さてと、読者には分かってもらうため広一いや、俺以外からの視線で楽しんでもらおう。

「煙幕だと…！！奴ら、汚い手を…！！」勿論、2番クラス。向井崎特製でほのかに香る、ライス

カレーの臭い。だいたい身体が弱い4～5名は意識重体で10秒後死亡確認、お見事！

広一の毒料理…！（倒れた方には残暑お見舞い申し上げます。）

「カキーン…！！バリーン…！！」と野球ボールが。それを拾

い上げた生徒が外に返そうとした時

その煙幕弾が牙を剥いた。それは煙幕弾ではなく硫酸であり、次々と投上。塩酸、硫酸、そして

ついには王水。仁田以外は全員骨や筋肉むき出しにそして、少しバチバチという音。

「反射神経強いぜお前。仁田だっけか？どうもお前えらのクラスを洗礼しに来た

広一です。よろしく、死んでね。」といきなりの大技下

から上へと振る、大津波。しかも

の雷。そして広一はこう言った。

「不老不死、不老不死、不老不死い！！良いねえ、不老不死。

お前も不老不死にならねえか？」と五回

「お前：喧嘩売ってんのか？」

「いや、売ってんのはお前の横つちよの窓にいる香野だな。」

すると仁田の横に氷鎌槍あいはるはーどを持った、香野が仁田に氷鎌槍を皮膚につけると

氷になり倒すと粉々に成った。そして一言。

「6番戦もこれで行こうや。仁田を洗脳して。」そして仁田は性格がとても良くなったとさ。

第7話 「勝負の行方」(後書き)

いかがでしたか？感想あれば受け付けます。
質問等あればなんとかコーナーで回答します。
では次回お楽しみに。

第8話「Here we go!」(前書き)

久しぶりに更新します！

結構まとめます！

ヨロシク!!!

第8話「Here we go!!」

6番戦もなかなかだった。仁田がギロチンで暴れるわ、広一は戦狂で鎌槍を振り回すわ…他の学校から見たら何コレ状態だった。その後もチーム戦へと発展。普通に広一ひとり勝ちだった。

そしてーランダム戦……。

「っー……！！」広一は真夏と戦っていた。真夏は獣のような爪で広一を串刺しにしたが、広一は発狂しながら言った。

「俺の名は……千呪眼広一！！コレが本名だ……。一氣にカタアつけてやるよ。黒龍劍こくりゅうけん」

「！！」と啞然するようなどす黒い剣を出し、爪を一氣に壊す。と、その時、真夏はその場で膝をつき倒れ、

動けなくなる。本人もいきなり来たので戸惑って、慌てて広一の方を見ると剣ではなく銃…拳銃を持っていた。黄色い

フォルムで黒い雷が周りをコーティングしていた。雷銃…日本式…別名でスタンガン。その、拳銃型だ。

撃たれて動けないのは分かるが、速い！これにより広一の勝利になった。それで真夏はつい叫んでしまった。

「う…ぐ…どうしてよ！！」

「隙だ。お前は俺にどうしても勝ちたいと急所ばかりを狙っていた。それが裏目をかいたな。ドンマイだが

これが理由だ。ああ…そうだ…なんで急所ばかりを狙うって分かったか、知ってるか？」

「……………」

「裏目の裏目を書いたら表だ。だから俺はあえて攻撃を受けた。真夏、お前は俺が他の事を思っていたと悟った

が無駄撃ちだったな……この勝負、俺の勝ちだ！」と大き

「...」

幽霊の一種か。めちゃくちゃ怖いんだが。と、その時

真夏の所で真夏は負傷。脳震盪を起こし吐血。あれは

原健一が参戦するが一瞬で

出して戦っているがビクともせず、さっきの

も魔人機の電磁波の攻撃のせいだ、足が動かない。

き刺さる。

「ささと倒して打ち上げた……！」 香野か？！

周りに炎を！向井崎は

足止めしてくれ。静は真夏を救助！」

「わかつた！」

か分かってるんだろ？……俺らの青春はまだ！

続くんだよ!! 我が青春、我に… 続けええええええええええ!!

! ! ! ! ! ! ! !

そして、魔人機は粉々になり最後にメッセージを残して倒れた。

冥王様ニ祝福ヲ才才才才才
……！！

第8話「Here we go!」(後書き)

次回からは新編開幕!!
見ずらくてすみません。

12本勝負大会編：完結 「恐怖のライド定食？」（前書き）

ここの編がやっと終わったので番外編で閉めます。
ものすごく短いです。恐縮します。

12本勝負大会編：完結 「恐怖のラード定食？」

俺ら、沢口香野、不知火姉妹をはじめとした14番組が焼き肉屋に来ていた。

広一はデザートだけ食ってるわ、良、拓也、向井崎の何時もながらの凸凹

トリオは、【ゼリーを網で溶かすと何分で消滅するか】実験をしていた。

真夏は：付き添いかな？ 静は焼肉っつーよりは焼きサラダ？ーとその時広一が

次なるデザートを選んだ。

【ラード定食】

「アウトー！！！」つい、叫んでしまった。

「なっ何？！別にいいだろうがすみませーんお願いしまー」

『はいメガサイズですね』広一が言ってから約2秒。

本日発売！！熱々の外はカリッ！中はふんわり〜のパンケーキにアイスを添え、

粉砂糖をまぶしドーム状の

白い砂糖菓子でコーティングした、見ためはブタの油の塊！！その、ラード定食、

限定10個発売！！

……………もつと、ネーミング考えろおおおおおおおおお
お……………！！

12本勝負大会編：完結 「恐怖のリード定食？」（後書き）

次回、夏休みに出せなかった、思春期少年少女団編を始め、VS・能力者編

そして、最終章などを出します！！

しばらくの間ですが、Good Bye！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5151u/>

魔善don't keep-out?!

2011年11月27日14時56分発行